

がん対策推進協議会で今後議論すべき内容について
いただいたご意見

門田会長

- 今後のがん対策の目指すべき方向について、長期的な視点から大局的に議論すべきではないか。これまでのがん対策を振り返り、患者の痛み、医療格差、専門医不足等の背景にどのような問題があるのか解決策を探るべきではないか。

江口委員

- 全国で展開されている「がん対策推進計画」のプロセスおよびアウトカム評価のための仕組みを構築するタスクフォースグループの設置について。
- 地域連携として有用な患者相談支援体制の確立について。
- がん検診の効率化に関する新たな方策。
- 治療法確立のための多施設研究グループの育成強化について。
- 人材育成のための多職種の研修教育体制。主催当事者と独立した立場の評価委員会活動の必要性。

田村委員

- 研究テーマ、研究費の配分について検討するシステム、さらに得られた研究結果を検証するシステムの確立について関する議論。現状の監査、検証システムを洗い出し、課題を抽出してそれを解決する方策を関連省庁が一丸となって検討していく。

花井委員

- 県のがん対策（県の取組（特にがん登録、人材育成、相談支援センターの活用、ピアサポーターとの連携、子どものがん教育、就労支援など）をヒアリングし、国との役割分担も含め議論する）
- 地域の相談支援体制充実のための議論（特にピア・サポートを充実させるため、病院側の受け入れ体制、相談支援センターの連携協力、ピアサポーターの育成における課題を明らかにし、好事例のヒアリングを行って議論を進める。）

前川委員

- がん対策推進協議会として、医学部・看護学部でのがん教育の充実などがん教育の必要性を文科省に提言する。さらに、医師に対する教育の充実。
- 病院の取組（例：待ち時間の短縮、各課の連携、相談支援センターの発言

力の強化、院内患者サロンの運営、院内の医療従事者間の交流)をヒアリングし、検証し、先駆的な取組を行っている病院についてはモデル病院として全国に普及していくための議論。

- がん関連の学会や厚労省委託事業等を連携させるためにヒアリングを行い、議論する。
- 各県のがん対策の進捗状況も把握し、基本計画を国、県、病院の各レベルで「絵に描いた餅」にしないためにどう取り組むべきか。
- 「地域統括相談支援センター」設置の推進について。
- 各地で開催されているがん医療関係の講演会・勉強会の一括情報提供を厚労省HPに掲載してはどうか。
- 小児がん拠点病院の経費と拠点病院の数のバランスの議論。

道永委員

- がん検診受診率の向上施策について
- がん登録の充実について

その他事務局案

- がん研究について